

## 平成 24 年 8 月分 検査結果の概要

簡略な説明のため、必要に応じ個表を参考にしてください。

### 放流水等水質調査結果（（1）表）

最終排水口での測定結果。

代表項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	500 (4～8 月限定)	42～79	利水期で脱塩運転をしています。 問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	20	2.4～4.4	問題のない値でした。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	20	3～7	問題のない値でした。
有害物質等 (mg/l)	協定で定めているすべての有害物質等（砒素などの重金属類、PCB などの有機塩素化合物、シマジンなどの残留農薬など 37 項目）について測定しました。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満もしくは処理目標未満の異常のない数値。	問題のない値でした。

地下水（シート下）と、2本の井戸水のモニタリング自動測定結果

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		6.2～7.0	従来と変わりなく、問題のない値でした
EC (mS/cm)	溶けているイオンの種類により差異はあるが、イオンの濃度が高いほど数値が大きい。		0.3～0.9	従来と変わりなく、問題のない値でした

### 公共用水域水質調査結果（（2）表）

エコパーク下流の、古志茂橋（中田川）と島崎川の3箇所同日に採水したものです。また古志茂橋の上流に落ちている生活排水の影響を調べる為、その排水口とそのすぐ下流からも採水しました。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	50	6～48	問題のない値でした。
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。		32～56 生活排水 27	利水期ですが、問題のない値でした。 また生活排水も低い値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	5	1.2～4.4 生活排水 1.6	環境基準の範囲内で、問題のない値でした。生活排水も問題のない値でした。
全窒素 (mg/l)	水中の有機物が分解される過程でいろいろな形態の窒素化合物が生成されるが、その窒素の総量。		0.72～1.0 生活排水 2.0	問題のない値でした。 生活排水も汚れの少ない状態でした。環境基準はありません。 なお同時に測定した硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素も環境基準の範囲内で問題のない値でした。
有害物質等 (mg/l)	古志茂橋と乙茂橋で鉛などの有害金属等 13 項目を調査しました。	環境基準に定めるそれぞれの値	定量下限値未満もしくは異常のない値でした。	問題のない値でした

今回の測定で、生活排水の影響は見られませんでした。

## 放射性物質・放射線量率測定結果((3)表)

浸出水処理施設からの放流水中の放射性物質濃度と、エコパークの敷地境界 4 箇所で空間放射線量率を測定しました。

- ・放流水中からは 放射性物質 ヨウ素-131、セシウム-134、同-137 は「検出されない」でした
- ・敷地境界(地表より 1mの高さ)の空間放射線量率は、0.05~0.06 マイクロシーベルト/h(平均 0.06) で問題のない値でした。

## 農業用水水質調査結果((4)表)

農業用水として使用している防災調整池から採水調査したものです。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		7.2	問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	5mg/l 以下	2.6	問題のない値でした。
DO (mg/l)	数値が高いほど水に溶け込んでいる酸素の量が多い。	5mg/l 以上	8.0	問題のない値でした。
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素 (mg/l)	土壌や水中の有機物分解でアンモニア塩が生成され、更に硝化菌により分解されたもの。	10mg/l 以下	検出されない	問題のない値でした。

## 公共用水域底質調査結果((5)表)

排水の流れる公共用水域(中田川)の泥に、有害な物質が含まれていないかを測定したものです。

代表項目	項目の説明	暫定除去基準値	測定値	コメント
鉛 (mg/kg)	泥に含まれる鉛とその化合物の総量。		11.4	昨年 11.7、一昨年 14.1、問題のない値でした。
砒素 (mg/kg)	泥に含まれる砒素とその化合物の総量。		7.2	昨年 12.8、一昨年 10.4、問題のない値でした。
総水銀 (mg/kg)	泥に含まれる水銀とその化合物の総量。	25	0.04	昨年 0.02、一昨年 0.05、問題のない値でした。
カドミウム (mg/kg)	泥に含まれるカドミウムとその化合物の総量。		0.2	昨年 検出されない、一昨年 0.3、問題のない値でした。
銅 (mg/kg)	泥に含まれる銅とその化合物の総量。		16	昨年 13、一昨年 17、問題のない値でした。

## 埋立量年次推移（平成11年～23年は測量実績値）

	単年度(m3)	累計(m3)	残容量(m3)
平成11年度	76,464	76,464	1,407,536
平成12年度	117,876	194,340	1,289,660
平成13年度	154,102	348,442	1,135,558
平成14年度	84,916	433,358	1,050,642
平成15年度	106,886	540,244	943,756
平成16年度	97,026	637,270	846,730
平成17年度	92,195	729,465	754,535
平成18年度	92,244	821,709	662,291
平成19年度	94,214	915,923	568,077
平成20年度	55,787	971,710	512,290
平成21年度	49,420	1,021,130	462,870
平成22年度	62,311	1,083,441	400,559
平成23年度	95,044	1,178,485	305,515
平成24年度（4～8月）	32,138	1,210,623	273,377